

# ラーニング・コモンズから仕掛ける 高等教育の質的転換 ー 同志社大学から問う ー

## 【事例報告者】

同志社大学 学習支援・教育開発センター事務長

井 上 真 琴

minoue@mail.doshisha.ac.jp

---



# 同志社大学良心館 ラーニング・コモンズ



同志社中学校移転後の用地に,教室,研究室,学生の自習室や福利厚生施設,人文・社会系学生を対象にしたラーニング・コモンズ等を備えた新校舎「良心館」(地下2階,地上5階,建築面積約8,000m<sup>2</sup>,延床面積約40,000m<sup>2</sup>)を建設した。

・何を目的に構築したのか

## FDと学習支援の両面から教育改善

---

- } 教育課程の体系化
- } 学生の主体的な学びを呼び込む授業や学習方法
- } 学修時間の確保(単位制度の実質化, 質保証)
- } 学習成果の可視化

FDとStudent Developmentの相互補完  
アクティブ・ラーニング進展への仕掛け

職員からラーニング・コモンズを提案 (2006年度末)

他者と「社会的に交わり」、具体的な「状況」と「文脈」の  
のなかで、「学び方」を学んでいく場(社会構成主義の学習観)



# 授 業

教える(教育)



学ぶ(学習)

## 《学習の質向上への方策》

教育力開発:FD

授業デザインの工夫  
教授法(Pedagogy)の改善



学習力開発:SD

学生本人の学びの質向上

学びのマネジメント  
モチベーションの質  
理解内容の質  
学習の進め方  
(他者とのかかわりの中で)

ラーニング・コモンズでの  
Unlearn(学びほぐし)

授業外学習

・どのような学習環境デザインか

## 空間のコンセプト

---

- } 面積 2,550m<sup>2</sup> (日本最大級)
  - } 図書館とは別校舎: 教室棟 (40,000m<sup>2</sup>)
  - } 「知的欲望開発空間」が全体コンセプト
  - } 目標は主体的な学びの進展, 授業外学習の「質」の転換
  - } 2フロアで構成 (各フロアコンセプトの共鳴)
    - 2F: クリエイティブ・commons: 学びの交流・啓発空間  
「学びのコミュニティ」の創出
    - 3F: リサーチ・commons: アカデミックスキル育成空間  
チュータリング機能 (学内初の学習支援組織)
  - } 運営主体は学習支援・教育開発センター
- 



・どのような学習環境デザインか

## 空間が備える性格

---

### } 柔軟性 (Flexibility):

可変性のある空間, 組合わせの型の机, 持ち運び可能なホワイトボードほか

### } 快適性 (Comfort):

長時間滞在が可能な快適空間

### } 感覚刺激性 (Sensory Stimulation):

オープンスペース: 他者の学習行動が「情報」になる空間

学習科学の理論等具現化: 認知的徒弟制, 正統的周辺参加

「開かれた倉庫」の創出: アフォーダンスの効かせ方

### } 人的支援提供 (Technology & Skill Support):

PCサポート, 学習スキルサポート, 情報探索サポートほか

ワークショップ開催ほか

---



・どのような学習環境デザインか

## 学習支援のための人的支援の配置

---

- ｝ アカデミック・インストラクター（専属教員2名）
  - ｝ アカデミック・インストラクター（専属職員1名）
  - ｝ 学習支援コーディネーター（職員1名）
  - ｝ ラーニング・アシスタント（大学院生14名） 2013.10～
  - ｝ 情報探索アシスタント（図書館からレファレンス担当1名）
  - ｝ 留学コーディネーター（国際センターから1名）
  - ｝ 留学アシスタント（国際センターから数名）
  - ｝ ICTサポートスタッフ（ITサポートオフィスから数名）
  - ｝ 学生スタッフ（学生支援センターから：ピアサポート講座受講生）
  - ｝ プリントステーション・スタッフ（外部委託）
- 



# どのような学習環境デザインか

## ラーニング・アシスタント(大学院生対象) ワークショップ

### 【到達目標】

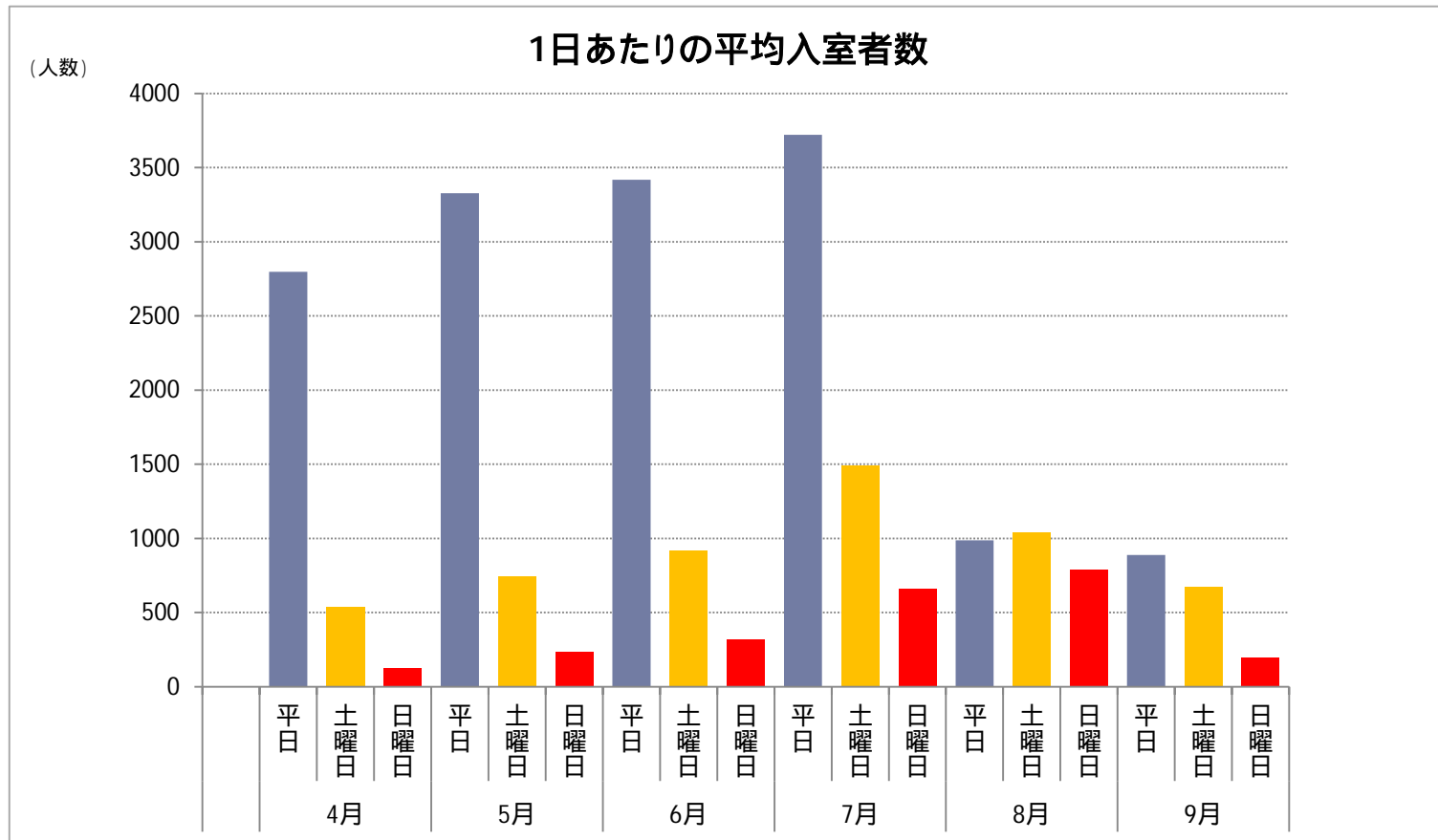
- ・初対面の人でも，なごやかに話ができ，コミュニケーションをとる中で，相手の立場に立って考えることができる。
- ・アカデミックサポートエリアに相談に来る学生の声を引き出すことができる。
- ・相談に来る学生の勉強の仕方，履修科目，演習などの情報を基に，学部の履修要領とカリキュラム体系を念頭に，学生の状況にあった指導ができる。
- ・大学の学びに必要なスキル・モラルについて説明できる。

### 【構成】

- 第1回 ラーニング・コモンズとは  
聞き手に求められるカーオーディエンス教育
- 第2回 妥協点を見つけるために受容的に聴くカー傾聴法
- 第3回 相手の立場に立って話をするカー自他尊重コミュニケーション
- 第4回 各学部のカリキュラムと履修科目を知る
- 第5回 大学での勉強とは？勉強法についての知識をアップ
- 第6回 模擬アドバイジング練習
- 第7回 学生のタイプに基づく授業形態へのアドバイス
- 第8回 協同学習のアプローチ
- 第9回 アクティブ・ラーニング，学生主体型授業
- 第10回 特別ワークショップ 協同学習の理論と実践



## 入室者数（春学期）



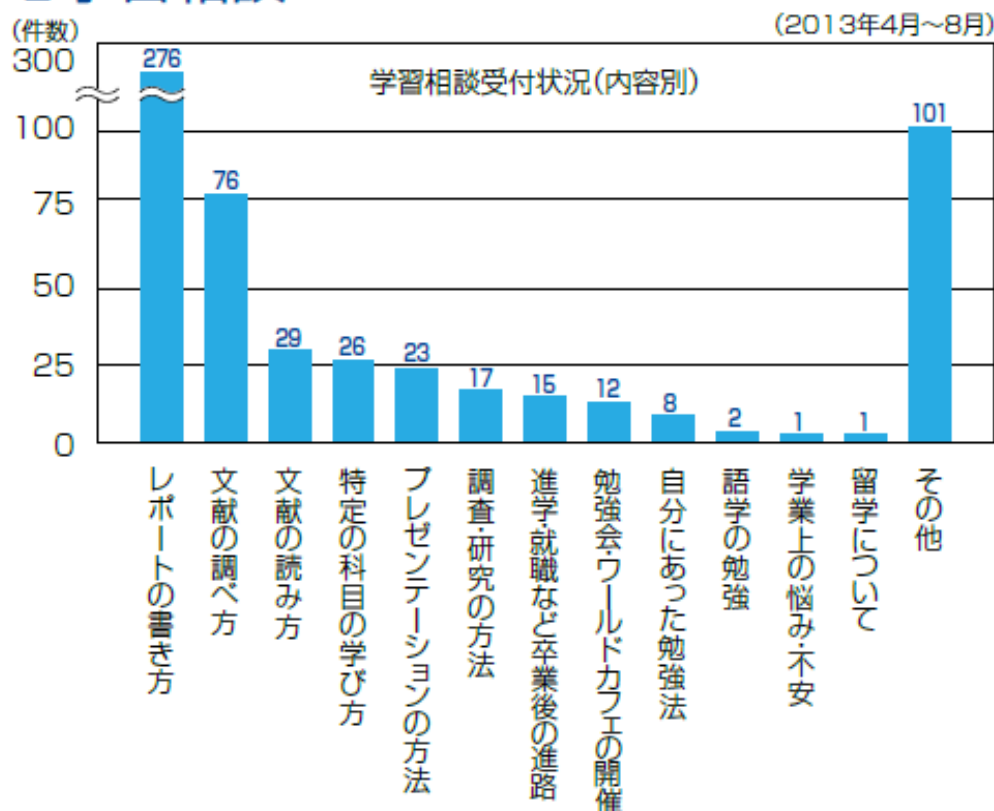
- ・試験期間前（7月）に特に多く利用されている。
- ・夏期休暇期間中（8月・9月）は平均入室者数が減少しているが、8月の土曜日・日曜日の入室者数が比較的多いのは、試験期間中に当たっていたためだと考えられる（8月の土曜日・日曜日の開室は、試験期間中の3日（土）、4日（日）、10日（土）の3日間のみ）。

# ラーニング・コモンズ運営状況

2013年4月に開設したラーニング・コモンズの運営状況についてご紹介します。



## ■ 学習相談



ラーニング・コモンズ3階のアカデミックサポートエリアでは、アカデミック・インストラクターが学生の学習相談に乗っています。

開設した4月から8月末までの間に、延べ406名の学生から約600件の相談を受け、特にレポートの書き方に関する質問が多く寄せられています。

## ■ 協同学習ワークショップ



7月18日18時30分より、講師に安永悟氏(日本協同教育学会理事・初代会長／久留米大学教授)をお招きし、ラーニング・コモンズ2階のプレゼンテーションコートにおいて、協同学習に関するワークショップ「後輩をサポートしたいあなたに～知らないうちに、学びを最大化できる協同学習とピアサポートへの誘い」を開催しました。

約30名の学生・教職員が参加し、協同学習の考え方や進め方と活動性を高めるグループづくりを理解することを目的として、様々なグループワークを交えながら、約2時間のワークショップを行いました。秋学期にも同様のワークショップの開催を予定しています。

## 運営主体と連携組織

---

### } 運営主体：

学習支援・教育開発センター（教育支援機構） 2012.7に組織名変更

### } 連携組織：多数の部門が多様な角度から「学び」に光を当てる契機

（同じ教育支援機構内） 情報支援課, 教務課, PBL推進支援センター,  
全学共通教養教育センター

（国際連携推進機構） 国際センター

（学生支援機構） 学生支援センター

（独立組織） 図書館, キャリアセンター

### } 事業内容の検討：

学習支援・教育開発センター内に

**学習支援検討部会を設置**（全学部および関連部門の代表）

---



## 期待される効果

---

### ｝ 学習（支援）のコミュニティ形成

- ・学習者間，指導者間の学びの可視化・共有化：創造現場での相互啓発

### ｝ Team Teachingによるスタッフ・組織の成長

- ・スタッフ・組織のコラボレーション
- ・「学習支援」の認知拡大とFDへの波及